地域・コミュニティ活動助成

一般社団法人 えんがお

栃木県大田原市

多くの人を巻き込み、世代、立場、障害の有無を超えた
「全世代参加型のごちゃまぜのまちづくり」

空き店舗を転用した「コミュニティハウスみんなの家」の前で

団体設立経緯

高齢者の「1週間に1回でいいから誰かと話がしたい」という声を聞き、地域の現状に疑問を持ちました。調べていくと、国政調査で「会話頻度が1週間に1回以下」という独居高齢者が、自分の住む栃木県だけでも5000人以上いることがわかりました。また「困った時に頼る相手がいない」と答える独居高齢者の男性が、全体の20%とのデータを見ました。一方、自分の周りには意欲的な若者との出会いも多く、その両者をつなげることで、高齢者の孤立の予防・解消ができるのではないかと考え、**一般社団法人えんがお**を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

栃木県大田原市にて、徒歩2分圏内にある6軒の空き家を活用。高齢者の生活支援・地域サロンを中心に、若者の勉強場所やシェアハウス、地域食堂、子どもの遊び場、障害者向けグループホームなどを展開しています。子どもから高齢者、そして障害の有無を問わず、すべての人が関われる地域づくりを目指しています。

活動に至った理由や背景

独居高齢者は、生活で困っても頼る相手がいないことが多くあります。また、困りごとの中でも制度では対応できないものも多く、そうした場合、誰にも頼れず諦めるしかない、という現状が多くあります。そういった制度の狭間の困りごとを、若者と一緒に訪問しながら対応することで、困りごとを解消しながらつながりと会話を生み出すべく、事業を始めました。

活動内容と成果

本助成金を活用して実施した事業とその成果は、以下の通りです。

1)多世代交流事業

【概要】地域の空き店舗を活用し、1階で**高齢者向けのサロン**、2階で**学生向けの勉強スペース**を運営。また1階の一角は「**えほん図書館**」として、子どもや子育て世代向けの場所を用意。様々な世代が日常的に関わることができる空間を、継続してつくっていく。

こうした場所を地域につくることで、高齢者には、多世代と関わることにより役割が創出され、孤立の予防や解消にとどまらず、介護予防につながっていく。子どもや学生は、近年自己肯定感の低さが指摘されているが、高齢者と関わり、受け入れられながら頼りにされていくことで、存在を受け止められ、自己肯定感の向上につながっていく。こうして、地域に多世代の交流の場所があることで、それぞれにとって良い影響が生まれていく。

【成果】多世代交流事業では、地域サロンに子どもから高齢者まで、延べ3057人が参加する場所をつくることができました。本助成金では、そのための家賃や水道光熱費、子どもの居場所づくりのためのフロアシート、断熱素材などを購入いたしました。その結果、子どもや高齢者、さらに障害を抱えた人など、すべての人が日常的に交流する環境をつくることができました。

また、今年度から不登校生の相談も増えました。こうした多世代交流の場所に、学校が合わなかった子どもたちを通わせたいと思う社会的な流れができてきたように思います。不登校の子どもたちも高齢者と関わることで自分が居ても良い場所と感じ、適応指導教室などにも通わなかった生徒が毎日来るなどの変化を見せています。

2)地域食堂

【概要】毎日1人で食事している高齢者と若者をメインターゲットに、毎週土曜日の夜に複数人で食事するための**地域食堂**を運営。つくり手は地域の方々や料理が得意な方に依頼。空いている曜日はレンタルスペースとして活用し、趣味でお店を出してみたい方や将来起業したい人が、1日店長として気軽に挑戦できる。地域食堂には子ども連れの家族も参加可能。また、近隣の障害者向けグループホームの利用者も訪れる。

活動エリア

「みんなの家」の1階は高齢者が集うサロン。子どもや子育て世代も巻き込んで、多世代が交流する場となっている

「みんなの家」の向かいにある「SHARE PLACE てnonage」。1階を地域食堂として活用する

併せて、「パパママ会」を隔週で実施。子育て世代が定期的に集まっていく中でつながりを築いていく。また、その際に普段関わっている高齢者と大学生にも参加してもらい、子どもとの交流を楽しんでもらう。

【成果】地域食堂・子育て向けのイベントに関してはコロナの影響も多く、開催が困難な時期が多くありました。その中でも、本助成金を活用して購入した体温計やパルスオキシメーターなどを活用して、健康状態に留意しながら可能な範囲で活動を実施しました。

地域食堂の実施回数は8回で、延べ138人が参加しました。開催頻度としては目標に達しなかったものの、独居高齢者が学生や子どもと一緒に食事をとり、そこには精神障害などを抱えた人も食卓を共にする景色をつくることができました。対策をしつつ、こうした世代が一緒に食事をする姿をSNSで発信すると反響も大きく、講演依頼や取材依頼も多くいただきました。

3）ソーシャルシェアハウス

【概要】空き家を活用し、地域活動に興味のある学生が比較的安価で住み、地域に密着した生活の中で活動しながら、同世代の若者と共同生活することで意欲が深まっていく。結果、若者が地域に密着して活動し、様々な社会課題に前向きに取り組む動きが生まれる。地域のお祭りやイベントに若者の手が足らずに苦労している様子が社会全体で散見されるが、そうした場所にもシェアハウスの入居者が参加することで、地域の安定したイベントの運営、存続に寄与していく。

また、地域とより深く関われるよう法人の通信を作成し、シェアハウスに住む学生が地域の方々に配布する。

2021年8月にシェアハウスの駐車場にてビアガーデンを開催。シェアハウスの入居者が中心となり、地域のお店と協力して屋外イベントを実施する。

【成果】ビアガーデンは、コロナウイルスのまん延により開催が困難でした。しかしシェアハウスの入居者は満員になり、さらに、本助成金を活用して4回印刷した通信を地域の方々に手渡しで配ることで、地域とつながる若者を増やすことができました。

印刷費などに関しては、それにより生まれる収益が見えにくく資金を投じることにハードルを感じてしまいますが、本助成のおかげで積極的な先行投資ができました。

地域のイベントには、入居者をボランティアとして参加するよう促し、地域の一員として参加していきました。そうした活動もあってか、地域における空き家活用への理解は進み、そのほかの事業も進めやすくなったように思います。

4月25日、シェアハウス漆喰塗り、ペンキ塗りイベント実施。学生20名参加。7月18日にはシェアハウス入居者で、地域のビアガーデンにボランティア参加。11月21日、地域のお祭りに参加。山車の引き手として活躍しました。

シェアハウスの学生を中心に、花植えやお祭りなどの地域活動にも積極的に参加

幅広い関係者が集まって、地域づくりの勉強会も開催

4）障害者向けグループホーム

【概要】空き家を活用し、「**グループホーム**」の制度を適用して、障害を抱えた方が地域に関わりながら生活できるようサポート。支援者（世話人）が常駐し、サポートを受けながらそのほかの事業と関わっていく。また、空き部屋を利用して地域の人たちとのヨガ教室やワークショップを実施。障害を抱えた人が日常的に地域の人たちと関わる環境をつくる。加えて、地域の理解が進むように障害者理解のための講習を4回開催。学生や地域の方々に参加してもらう。

【成果】すべての事業において、子どもから高齢者までの世代を超えた関わりであったところに、障害を抱えた人も参加する景色がつくれました。こうした人は、これまで地域から分断され、関わりが少なく過ごすことが当たり前でした。その結果、障害についての理解も進まず、悲しい事件が起こったり、差別や偏見が継続されたりしています。

こうした状況を変えるためにも、地域の日常の中に障害を抱えた人が日常的にいることは、今後の地域社会にとても大切な要素です。本事業では、それが一歩進められたように思います。そのための勉強会も、本助成金を活用し実施することができました。

課題と解決方策

【課題】今年度はやはりコロナの影響を多く受け、実施が困難もしくは小規模なものが多くなりました。今後、感染拡大の様子を見ながら、ステージごとに対策を分け実施していく必要があります。

その中でも課題の1つは、新規の高齢者とのつながりをつくれなかったことです。孤立している高齢者は、私たちの活動地域にもまだまだおり、そういった高齢者のもとに情報を届けていく必要があります。今年度はそこを目標に動いたものの、新規の高齢者がサロンに参加したり、地域食堂に来たりする動きには、あまりつながりませんでした。

次に、地域のイベントや勉強会における参加者の拡大です。こちらも、これまでのつながりの人は多く参加してくれましたが、新規の参加にはつながることが少なかったように思います。

【対策】来年度はこうした課題も踏まえ、積極的に新規のつながりをつくるため発信していきます。パンフレットや通信なども広範囲に配布していき、認知を広げていきます。

今後の予定

今後は子どもの入り口を拡大していくために、学童保育とフリースクールの事業を開発します。そうすることでさらに関係人口を増やし、世代や立場に関係なくすべての人が日常的にかかわりを持ち、つながりの中に居場所を感じられる地域のモデルを構築し、広めていければと思います。

一般社団法人えんがお

2017年5月設立／メンバー数：4人／代表者：濱野 将行（はまの・まさゆき）
●〒324-0051　栃木県大田原市山の手1-9-10
☎0287-33-9110　engawa.smile@gmail.com
www.engawa-smile.org

私たちは、「人とのつながりを感じられる社会」をビジョンに掲げ、以下の3つのミッションの下、事業に取り組んでいます。「地域のさまざまな人の力を活かして、高齢者の孤立化の予防と解消ができる地域の仕組みをつくり、実践していく」「若者の存在を受け入れ、成長できる場を共につくる」「人とのつながりの力で、あらゆる社会課題と向き合う」